

※市ホームページ「令和7(2025)年川崎のできごとを振り返ります」をもとに再編集

### 1月

#### 自動運転バス実証実験がスタート

大師橋駅(川崎市川崎区)～天空橋駅(東京都大田区)、川崎駅～市立川崎病院(川崎市川崎区)の2ルートで、乗客を乗せた自動運転バスの実証実験を開始した。

#### 海洋プラスチックのリサイクル実証事業が

#### 「防災・減災×サステナブル大賞2025」最優秀賞を受賞

かわさきプラスチック循環プロジェクトの一環として株式会社レゾナックと実施した実証事業が、資源循環に加え脱炭素への貢献も評価され、一般社団法人減災サステナブル技術協会主催の同大賞の最優秀賞を受賞した。

### 2月

#### 市制100周年を彩った広報物をアップリサイクル

市制100周年で市内の主要駅や公共施設に掲出した横断幕などの広報物をアップサイクルし、こども文化センターのガーランド作りの素材や、バッグやアクセサリなどのオリジナル製品の生地として再活用した。

### 3月

#### 「全国都市緑化かわさきフェア」春開催

市制100周年の象徴的事業として、国内最大級の花と緑の祭典「第41回全国都市緑化かわさきフェア」を開催した。全国初となる秋・春の二期開催とし、合計で約162万人が来場した。総合閉会式では、次の100年に向けて、「みどりのKAWASAKI宣言」を発表した。

#### 川崎市役所第2庁舎跡地に市役所広場オープン

川崎市役所第2庁舎跡地で整備を進めていた「市役所広場」が完成した。この広場は、川崎駅と富士見公園とを結ぶ中継地点に位置し、憩いの場として整備された。「全国都市緑化かわさきフェア」の春開催のスタートに合わせ、完成式典を行い、供用を開始した。

### 4月

#### 市内115校目となる新小倉小学校が開校

「地域とともに、ひとや環境にやさしい未来を創る

次世代小学校」を基本理念とし、新小倉小学校が開校した。学校教育目標は「新しい自分をつくる 未来をつくる」で、子ども達が可能性を広げ、未来の創り手となる力の育成を目指す。

#### 市内初の看護系大学院となる

#### 川崎市立看護大学大学院が開学

超高齢社会の進展で医療、介護、福祉等のニーズが高まる中、市内初の看護系大学院が誕生した。より高度な専門性と実践力を有する看護職、多職種と連携して地域包括ケアシステムを推進できる人材の養成を目指す。

#### みんなで「川崎の歴史の本」をつくるプロジェクトが本格スタート

市制100周年を記念し、市民参加による新しい「川崎の歴史の本」の制作が本格的に始動した。市民の声が形になっていく過程を発信しながら進めていく。

### 5月

#### 「川崎市とどろきアリーナ」の愛称が

#### 「東急ドレッセとどろきアリーナ」に決定

ネーミングライツ事業により、東急株式会社がネーミングライツパートナーとなり、令和7年6月から愛称が「東急ドレッセとどろきアリーナ」となった。

#### 令和5年度の「1人1日当たりのごみ排出量」が政令指定都市最少

令和5(2023)年度の1人1日当たりのごみ排出量の少なさで、4年振りに政令指定都市1位を達成した。市民のごみ減量への理解と行動による成果であり、これからも「川崎だから」できる循環型のまちづくりを目指して取組を進めていく。

### 6月

#### 「かわさき多文化共生プラザ」で

#### 日本語学習個別相談を開始

同プラザでは、毎月第4木曜日の13:30～16:00に、日本語学習者、日本語学習のボランティア等を対象に、日本語学習の方法や教材の紹介など、日本語教師資格を持つコーディネーターが個別相談を受け付ける。

## 7月

### 7月1日、市制101周年目がスタート

7月1日、川崎市は市制101周年目を迎えた。市のブランドメッセージ「Colors, Future! いろいろって、未来。」の理念のもと、多様な「個性」や「らしさ」が重なり合うまち・川崎として、これからも様々な取組を進めていく。

### 市立学校の太陽光発電「スクール発電所」の稼働

2050年の脱炭素社会の実現に向け、市立学校への太陽光発電設備と蓄電池の導入を進めており、令和6(2024)年度末時点で26校に整備し、このうち2校が7月から稼働を開始した。残りの学校も順次稼働を進めていく。この設備を「スクール発電所」と名付け、今後、拡大していく予定である。

## 8月

### 川崎駅東口駅前広場で

#### 路上演奏の登録制を試行実施

川崎駅東口駅前広場での路上演奏について、演奏場所や時間のルールを定めて登録制とする「川崎駅東口ストリートミュージックパス」の試行を開始した。演奏者は事前に登録を行い、登録証を掲示して演奏する。

## 9月

### アーバンスポーツの新拠点「カワサキ文化公園」がオープン

バスケットボールやスケートボードを無料で気軽に楽しめる施設として「カワサキ文化公園」がオープンした。公募で選定された株式会社ディー・エヌ・エーが整備を行い、運営を開始した。

### SHISHAMOが

#### Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsuで音楽ライブ開催発表

川崎市市民文化大使であり、かわさきスペシャルサポーターとして活躍してきた「SHISHAMO」が、令和8(2026)年6月に「Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu」でのワンマンライブの開催を発表した。さらに、このライブをもって活動を終了することも発表された。

## 10月

### 川崎市初！モビリティステーションの実証実験を開始

川崎市では、地域交通の維持に向けて、路線バスを基軸としながら、乗換拠点を中心に多様なモビリティサービスを利用できるモビリティステーションの形成に向けた取組を進めている。10月に川崎区藤崎3丁目で人工芝の憩い空間を備えた「KAWASAKIのるーとHUB」(交通×住宅地)、11月には高津区子母口で地域情報を発信するデジタルサイネージを設置した「MobiSt.川崎・橋公園」(交通×公園)の実証実験を開始した。

### 市長選挙・市議会議員川崎区選挙区補欠選挙

任期満了に伴う川崎市市長選挙が10月26日に執行され、過去最多となる6人が立候補し、新たな4年間の市政を担う市長が選ばれた。また、川崎市議会議員川崎区選挙区補欠選挙も同日に執行された。

## 11月

### 秋の5大イベント開催

市制100周年の節目を超えて新たな1年目を踏み出した川崎市が、市民が誇れる「川崎最大の秋の祭典」の実現を目指し、11月上旬に「Colors,Future!Summit 2025」「みんなの川崎祭」「かわさき市民祭り」「川崎夜市」「LIVE STOCK - KAWASAKI MUSIC JOURNEY-」の5つのイベントを連携して開催した。

## 12月

### 第12期川崎市市民文化大使が決定

文化芸術やスポーツ等の分野で活躍し、市にゆかりのある方のうち、第11期から引き続き選ばれた10組と新たに選ばれた2組が、第12期市民文化大使に決定し、各々の活動を通じて川崎のイメージアップに協力する。

### SHISHAMO 宮崎朝子さん 新小倉小校歌をお披露目

令和7(2025)年4月に開校した新小倉小学校で開校記念式典を開催した。児童の発案で、児童が考えた言葉をもとに「SHISHAMO」のGt.Vo宮崎朝子さんが作詞・作曲を担当し、制作された校歌が、式典当日に児童によって初披露された。